

大阪消防

特集 大阪府下警防技術指導会
令和7年度 消防救助技術練成会



令和8年

6

No.915

月号

CONTENTS

大阪消防 6

表紙：消防救助技術練成会
はしご登はん訓練

01：コンテンツ／災害概況

02：特集 第10回 大阪府下警防技術指導会

06：【職務】令和7年度消防救助技術練成会

08：【職務】第73回 消防職員意見発表会

10：ケイボウタイムズ

12：共に学び共に成長

14：緊急消防援助隊NEWS

15：明日に備えて過去に学ぶ

16：コマンドアイ

18：救急いろは

20：実録!!調査鑑識

22：イクキュー

24：No more! 事故

25：ソナエの教室

26：人材育成のヒント

27：落語DE火の用心

28：We are Rookies!

30：大阪の消防NEWS

32：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより

33：淀橋広子の広報講座

34：Just Do It!

36：【職務】防火・防災管理等オンライン講習について

38：現場に活かす! 救急救命士国家試験問題

39：消防漢字ガール

40：救急安心センターおおさかだより／編集後記

令和8年 大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
4月中合計	1	3	13	28	45	3	0	0	10	58
令和8年 4月末累計 (1～3月)	5	10	45	142	202	13	0	1	32	248
令和7年 4月末累計 (1～3月)	10	7	66	141	224	10	0	0	31	265
累計比較	▲5	3	▲21	1	▲22	3	0	1	1	▲17

◎救急概況

	救急出場
4月中件数 (概数)	19,465
令和8年 4月末累計 (1～3月)	81,935
令和7年 4月末累計 (1～3月)	87,389
累計比較	▲5,454

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和8年 4月末累計 (1～3月)	1,529	489	0	417
令和7年 4月末累計 (1～3月)	1,489	433	0	422
累計比較	40	56	0	▲5

優秀賞

豊中市消防局



悔しさの残る優秀賞受賞 — 今後の成長へ —

「出場して本当に良かった。」警防技術指導会を終えた今、心の底からそう思います。拝命されて約1年になりますが、こんなにも多くの方々に御指導や応援をしていただき、成長できたこの期間は、とても貴重なものでした。また、チームの先輩方の姿から、創意工夫を持つ重要性、考えた分だけ成長することなど、多くのことを学びました。当日の結果は優秀賞で、多くの方々から「おめでとう。」と声をかけていただきましたが、おめでとうの数だけ優勝できなかった悔しさが込み上げ、素直に喜べない自分がいたことも事実です。訓練に終わりはないと改めて実感し、今後の消防人生においても現状に満足することなく、成長し続けたいと思います。最後になりますが、指導会及び訓練に携わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

優秀賞

八尾市消防本部



結束力と警防技術の向上 — 優秀賞までのプロセス —

第10回大阪府下警防技術指導会に出場するにあたり、当市では、課内選考を経た2小隊が選抜され、その後、署内選考会を勝ち抜き、本大会への出場に至りました。その過程で隊員の負傷という困難にも直面しましたが、互いに支え合うことで小隊の結束力をより一層高めることができました。

また、他市との合同訓練を通じて多くの刺激や学びを得ることができ、技術面や精神力が大きく成長できたと感じています。訓練では、基本動作を徹底的に鍛え上げるとともに、隊員相互での連携を深めました。本番では緊張感の中でも不安はなく、落ち着いていたことで訓練成果を遺憾なく発揮することができ、優秀賞を受賞できたことを大変光栄に思います。

この結果は、小隊全員が訓練に真摯に向き合い、個々の警防技術の完成度を高め、小隊が一丸となった成果であると感じています。この経験を今後の現場活動に活かし、更なる技術の錬磨向上に努め市民の負託に応えていきます。

第10回大阪府下警防技術指導会

2026.2.10

本指導会は、安全管理マニュアルを遵守したうえでの警防活動要領の習得、現場情報の積極的な収集、迅速な放水体制の確立と放水技術の習熟を重点目標としています。

府内の全消防本部が一同に介して警防技術を披露するという、全国初の試みとして平成25年から開催されており、今年度は大阪市消防局高度専門教育訓練センターにおいて、3年ぶり10回目の開催となりました。

最優秀賞、優秀賞を獲得された消防本部の声と指導会の概要及び当日の様子を紹介します。

最優秀賞

岸和田市消防本部



悲願の最優秀賞へ — 第10回大阪府下警防技術指導会を終えて —

これまで本指導会では優秀賞を3度受賞してきたものの、最優秀賞には届かず、「今回こそは必ず」という強い覚悟を胸に訓練を重ねてきました。

まずは隊全体で実施要綱を熟読し、個々の動きをひとつひとつ確認していくことから始めました。満点を狙うのか、スピードを優先すべきか、隊員間で目指す方向性を丁寧に考え、足並みを揃えるように話し合いました。実技では動作を細分化、部分ごとにラップタイムを測定し、弱点を“可視化”。改善を積み重ねることで、着実にタイム短縮へと繋げていきました。個人の完成度だけでなく、隊全体の総合点と総タイムを最大化するため、隊員間でカバーをし合いつつ、動きが噛み合う「究極の完成形」を追求しました。指導者に指摘され、落ち込んだ時にも、前向きに高め合える空気を大切にできたことが、最後の底力に繋がったと感じます。

指導会の当日は、会場が岸和田市の“ホーム”のような声援に包まれ、隊員一同が持てる力を出し切った結果、最優秀賞を受賞することができました。結果を告げられた瞬間、胸に溜めてきた思いが溢れ、言葉にならない喜びが込み上げました。

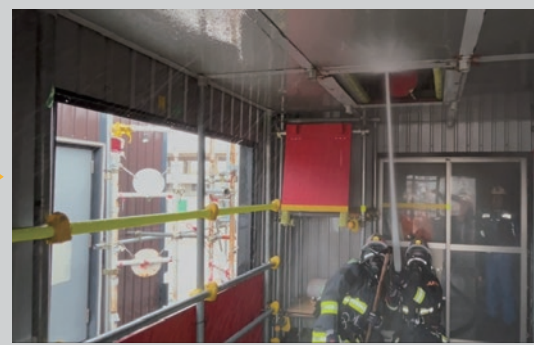
悲願の達成は隊員の努力に加え、指導者の皆様、支えてくださった職員、応援して下さった方々、そして本指導会の開催にご支援いただいた皆様のご尽力の賜物です。この最優秀賞を新たな一歩とし、今後も警防技術の向上に努め、現場で確実に力を発揮できる隊へ成長してまいります。

【 指導会の様子 】





⑦ ベランダで面体着（シールド、しころを含む。）



⑧ 2階ベランダから第4標的を制圧後、室内進入し、小屋裏の第5標的を消火



⑨ 室内での燃焼物への注水のため、障害物を除去し、放水。第6標的（火点）を制圧し、訓練終了

合同訓練

訓練概要

大規模な林野火災が府内市町を跨ぎ発生したと想定し、大阪府大隊により、延焼阻止及び飛び火警戒を行い、人海戦術による一挙制圧をはかる。

訓練参加隊

指揮隊1隊、消火小隊5隊、資器材搬送隊3隊、情報収集隊。（ヘリ1機、ドローン隊1隊）



指揮隊の様子



ヘリによる情報収集



水幕放水



ドローンでの訓練状況俯瞰撮影

指導会概要

訓練想定

木造2階建一般住宅2階出火、隣接建物へ延焼危険あり。

出場人員機械

府内24消防本部（局）。参加人員96名。
各消防本部（局）につき1小隊、乗組人員を4名。

操法要領



① 出場指令を受け、消防車両を走行



② 現場到着し、消火栓部署



③ ホースカーを下ろし、ホースを延長



④ 地上から第1標的（延焼阻止）、第2標的（延焼阻止）、第3標的（火炎）を制圧



⑤ 3連はしごを搬送し、架梯



⑥ 自己確保ロープを設定後、3連はしごを登り2階ベランダへ転進



令和7年度消防救助技術練成会 令和8年3月12日～13日

令和8年3月12日、13日の2日間、大阪市消防局高度専門教育訓練センターにて、令和7年度消防救助技術練成会を実施しました。

本練成会は、各種災害現場において安全・確実かつ迅速に対応するための救助技術及び安全管理意識を向上させることを目的として実施しており、今年で53回目となります。

練成会当日まで、日々厳しい訓練を重ねてきた隊員達は、来場した家族や職員など多くの応援を背に受け、緊迫した空気の中、安全性、確実性、迅速性を競いました。

本予選会の部の上位入賞者は、本年7月25日に実施される、第54回消防救助技術近畿地区指導会に当局の代表として出場します。



谷 恭輔 消防司令補にうかがいました！

Q1 このテーマを取り上げた理由をお聞かせください。

A1 私自身も違和感に気づきながら、それを発言できなかった経験があったからです。そんな私ですが、「年齢や立場に関係なく、気づいたことや間違っていると感じたことは遠慮なく言ってほしい」と話す上司に出会い、小さな違和感を周囲に共有できるかどうかは、個人の資質だけでなく、環境の影響が大きいことに気づきました。

Q2 心理的安全性における「馴れ合い」と「安全な発言環境」の境界線をどう考えていますか？

A2 「言いやすさ」の本質が違うと考えています。「馴れ合い」の組織では、一見何でも発言できるように見えますが、その深層には、「嫌われたくない」「雰囲気を悪くしたくない」という心理があり、本当に必要な指摘や発言ほど言えなくなると思います。反対に、心理的安全性が高く発言しやすい組織は、時に厳しい指摘だとしても、組織に必要なことであれば、遠慮なく発言ができます。

Q3 部下（若手）がI（アイ）メッセージを受け取り反応が変わる「分岐点」は何だと感じますか？

A3 Iメッセージが“評価”として相手に届くか、“気づき”となるかが分岐点になると考えています。部下が「～さんに、～と指摘された。」と感じている段階では、まだIメッセージとは言えません。「なるほど、～するべきだったんだ。」と“気づかせる”ことが重要です。

Q4 最後に、優秀賞を受賞されて一言お願いします。

A4 Iメッセージを実践することは、一見簡単そうですが、私自身も難しく感じる瞬間が多々あります。私の今回の意見発表が多くの職員の心に響いて、心理的安全性について考えるきっかけになれば嬉しいです。

Iメッセージを活用することで、指摘される側は「自分は怒られている」という印象を受けづらくなります。また、自分の意見を聞かれることで、「自分も意見を言っているんだ」「自分の意見を求められているんだ」という気持ちになり、次第に、心理的安全性は高まっていくのです。

このように、Iメッセージを活用すれば、心理的安全性は高まります。そしてそれが次の声を生む。そのようにして、組織のリスクマネジメント能力は向上していくのです。

私は強く思います。言いやすい雰囲気、心理的安全性とは、単なる「仲良しな空気」ではありません。それは、命を守るための組織力となるのです。

小さな違和感に声を上げられる職員になりましょう。そして、その職員から、声を引き出せる組織作りをしましょう。その一言が救うのは、市民の命だけではありません。隣にいる仲間の命、そして自分自身の命です。

第73回 消防職員意見発表会

令和8年2月17日、西消防署講堂において第73回消防職員意見発表会が開催されました。ここでは、優秀賞を受賞した、谷 恭輔 消防司令補（城東消防署 情報担当）の発表内容をご紹介します。

優秀賞



その一言が命を守る

城東消防署 情報担当 消防司令補
谷 恭輔



発表会当日の
音声はこちら

皆さんは日常の業務、そして災害現場で、違和感を感じる瞬間はありませんか。事務作業のミス、火災現場における煙の色、隊の仲間の動き。そのような、どんな小さな違和感でも、時に大きな危険につながる可能性を秘めています。

しかし、違和感を感じた時に、その場ですぐに周りに発信し、共有できるかとなれば、躊躇してしまう職員も少なくないはず。 「間違っていたらどうしよう」「こんな事を言ったら怒られるような気がする」、そんな考えが人を沈黙させてしまうのです。

私たち消防の仕事は、一つの判断、一つの行動が、市民の生命、そして仲間の安全を左右します。だからこそ、現場で感じた小さな違和感を、躊躇せず、すぐに共有できる環境、組織風土が必要です。

そして、その組織風土作りの土台となるのが、「心理的安全性」です。

心理的安全性とは、「この組織の中で、自分は何を言っても大丈夫だ」と誰しもが安心して発言できる環境のことです。この心理的安全性が高い組織では、ヒヤリハットや小さな違

和感がすぐに周りに共有され、結果的に事故の芽を事前に摘み取ることができます。反対に、心理的安全性が低い組織、言いづらさや遠慮がある組織では、感じた違和感を共有できず、大きなリスクとなるのです。

そこで、心理的安全性を高めるために、みなさんにぜひ実践していただきたい「ミニコミュニケーションスキル」があります。それはI（アイ）メッセージ―「主語を私にする」という手法です。

例えば、警防訓練後のミーティングで、上司であるあなたは部下にこう言います。「さっきの訓練、君のこが危険だった。」これは、YOUメッセージ、自分の主張を相手に一方的に伝える方法です。

では、先ほどの言葉をこう言い換えてみてください。「さっきの訓練、私は君のこが危険だと感じた。君はどう思う？」

すると、どうでしょう。自分の気づき、指摘、主張を相手に率直に伝えながらも、直接的に相手を責める印象を避けることができます。さらに、自分の主張の後に相手の意見も自然と引き出せるのです。

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第26回 高所活動車（LT-Lift up Tower）

警防課〈機械器具開発〉

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当によ
る「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、
警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

はじめに

大阪市消防局では、あらゆる災害や事故、緊急
事態等に対応できるよう、様々な車両を保有して
います。今回は、平成22年度から導入された「高
所活動車（LT）」をご紹介します。

高所活動車が導入された経緯

家屋が密集し、道路も狭隘なため火災被害の拡
大リスクが高いうえに、はしご車では進入できな
い地域が多い大阪市では、密集市街地での火災に

保を目的に、構造・機能並びに運用について、安
全上必要な事項は「消防車両の安全基準」により
定められています。

■高所活動車の主な特徴

高所活動車の車体は全長約6・9m、車幅約1・
9mで、従来のはしご車（車幅約2・5m）よりも
大幅に小型化されています。平成22年度から導入
した高所活動車は地上高さ17mの直進式が3台で
すが、令和6年度に地上高さ19・6mの屈折伸縮
式が3台、令和7年度には同様の車両がさらに2
台導入されました。

「直進式」「屈折伸縮式」でそれぞれ作業範囲は
異なりますが、いずれもほぼ同様の安全装置を装
備しています。

高所活動車の主な機能等

直進式は最大地上高さ17m、作業範囲10・7m、
使用範囲は起立角度マイナス16～80度。屈折伸縮
式は最大地上高さ19・6m、作業範囲11・1m、
使用範囲は起立角度マイナス16～80度。いずれも
バスケットスイング機能付き伸縮式ブーム装置を
装備しています。
定員2名、積載荷重は200kgのバスケット装
置を装備しています。

対応することを課題としてきました。

そのような大阪市の地域特性に合わせて車両を
小型化し、平成22年度から導入されたのが「高所
活動車（LT）」です。はしご車の進入が難しい繁
華街や市街地等でも活躍でき、密集地域で発生す
る中低層階建物の消火活動や救助活動を効果的に
進めることができるとともに、コスト縮減にもつ
ながっています。

高所活動車の有効性

高所活動車については、導入以来、狭隘な道路
が多い密集地域での有効性を認めることから、は
しご車では進入できない密集市街地を中心に、市
内全域で有効活用する体制を進めてきました。導
入時は3台体制でしたが、令和8年度から8台体
制に増強配備されています。

現在は、大阪市内4つのブロックそれぞれに2
台ずつ配備されており、建物火災の通報から概ね
15分以内に到着できる体制となっています。ちな
みに、平成24年からの約10年間に、大阪市内では
建物火災が6,583件発生し、そのうち4階以
上で発生した火災は1,660件(25%)ありました。
高所活動車が活動できる4階から6階では1,0
02件発生しており、はしご車が進入できない街

■装備されている安全装置

- ①作業半径規制装置…アウトリガーの張出し部分
の長さに応じて、バスケットの動作範囲を規制す
る。
- ②足踏み式デッドマンスイッチ…バスケット内での
誤操作を防止する。
- ③緊急停止スイッチ…基部及びバスケット内操作
部に油圧動力を遮断して緊急停止できる。
- ④ジャッキインターロック装置…ジャッキの設置
が不十分なときに、アウトリガー以外の操作がで
きないようにする。
- ⑤ブームインターロック装置…ブーム未格納状態
のとき、ジャッキの操作ができない。
- ⑥油圧シリンダーロック装置…油圧配管の破損時
に油圧シリンダーの伸縮を防止する。
- ⑦安全装置…P・T・O「入」時、シフトレバーが「P」
以外（マニュアル車は「N」）のときにエンジンの始
動ができなくなる。
- ⑧パーキングブレーキ警報装置…パーキングブレ
ーキを掛けずにP・T・Oを「入」にすると警報が鳴る。
⑨P・T・O切り忘れ警報装置…P・T・Oが「入」
のままでの走行を防止する。

■その他の特徴

- 速度制限装置…起伏及び旋回時のバスケットの
速度をブームの長さ及び作業半径に応じた速度に

区での建物火災は906件、4階以上では124
件(14%)、そのうち4階から6階での火災は92件
でした。

高所活動車ってどんな車両？

高所活動車は、地上から高さ17～20mに達する
一般の工事用高所作業車をベースに、バスケット
部に放水銃や照明装置などを取り付けて、消防活
動向けに改造した車両です。狭隘道路地域や密集
地域における火災などの災害に対応できるよう、
車幅は約1・9mと従来のはしご車よりも大幅に
小さくなっています。

■高所活動車は「高所作業車」の一種

高所活動車は、一般的に「高所作業車」と呼ばれ、
「高所作業車構造規格」に合格した車両となってい
ます。

高所作業車構造規格とは、労働安全衛生法に基
づいて定められたもので、強度・安定度から始ま
りワイヤーロープなど技術上の基準や、製造者名・
作業範囲等の表示方法も細かく指定されています。
ちなみに、消防機関で用いられるはしご車は、
労働安全衛生法に規定する高所作業車には含まれ
ないとされています。はしご車の使用時の安全確

自動調整する。

- 自動格納装置…ブームが展開された状態から、
格納位置に自動で格納される。
- 放水銃及び自衛噴霧ノズルをバスケットに装備。
- 投光器をバスケットに装備。
- 自動変速機を採用（初期導入車2台を除く）。



直進式



屈折伸縮式

おわりに

市民の安全・安心の向上を目指し、職員の皆様
からの貴重なご意見も取り入れながら、今後も警
防課として消防体制の強化に務めていきます。